

「プラン2015」 4年目取組状況

わ
環の縁結びフォーラム

「プラン2015」
飲料用紙パックリサイクル行動計画
～4年目取組報告～

アクションプランに基づいて、4つの委員会で活動を推進してきました。

1. 総務委員会

(1) 回収率50%以上に

①紙パックリサイクルの基本調査・回収率の算定
ここ数年の紙パックの回収率の上昇率鈍化を受け、さまざまな仮説をたて従来の調査で捉えきれない数量の把握に努めました。松戸で雑がみの組成調査を行い、雑がみとして排出されている紙パック量の把握に努めました。

②紙パックリサイクル促進地域会議の開催
本年度は千葉、神奈川で地域会議を実施しました。会議開催にあたっては当該地区の自治体に委員が訪問しヒアリングを行い、それをもとに回収方法について情報共有を図るとともに回収率向上における課題について議論しました。

③改良型紙パック回収ボックスの投入
昨年度改良した回収ボックスの配布を継続するとともに、狭い事務所向けの小型の回収ボックスを製作しました。
(2)容器包装リサイクル法改正に向けてのパブリックコメントの作成・提出を行いました。

2. 広報委員会

(1) 普及啓発事業

①ホームページの拡充
管理会社と解析ツールを利用して現状を分析し、ページデザインを検討し、全体的な構成を整理しました。

②啓発ツールとして、塗り絵タイプのデザインのうちわ

3点を作成しました。

③年次報告書2015の企画・編集に取組みました。

(2) 回収促進事業

①全国20事例集(第4集)を全国パック連と共に企画し、新規事例及び第3集掲載分の更新について、専門委員が全国パック連と協力して取材しました。

②量販店向けとしてリサイクル啓発用のPOPの企画・デザインを総務委員会と協力して検討しました。

3. イベント委員会

(1) 紙パックリサイクルを活用した環境教育と普及啓発

①全国パック連と協働して自治体や店舗5ヶ所でリサイクル講習会、小学校8校で出前授業を開催しました。

②エコライフ・フェア2014、足立区地球環境フェア2014、エコプロダクツ2014など環境フェアに出展しました。

(2)牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクールの企画
応募数減少対策として、昨年度埼玉県で効果のあった地域教育委員会への協力要請を1都3県へ拡大し、新規参加校の増加に努めました。

4. 支部組織委員会

(1) 紙パックをめぐる諸活動の担い手の発掘と支援

①紙パック回収率向上に向けて環境イベントなどに各種パネルの貸出や冊子類の配布を行い、リサイクルの環作りに努めました。

②イベント支援にあたりガイドラインを見直し、より効率的な運用方法に改めました。

③地域企業・サポーターが出展する地域環境フェアなどに啓発ツール等の貸出を行い、支部組織への協力・活性化に努めました。

各委員会の活動は、月次委員会及び理事が出席する四半期運営委員会で報告され、成果を確認し、必要に応じて活動内容が修正されるなど、行動計画に基づき活発な活動を推進しています。

自治体、福祉事業所、関連企業などが参加し、
牛乳パックのリサイクルに関わる福祉事業所の
取組や事例が報告されました。

【環の縁結びフォーラム】10月30日

大阪産業創造館で、全国パック連が主催・容環協が協賛する「環の縁結びフォーラム」及び全体交流会が開催されました。今回のテーマは「牛乳パックリサイクルに関わる福祉事業所情報交流会」で、多くの福祉事業所、自治体、関連企業など、フォーラム及び全体交流会に延べ114名の方々が参加されました。

主催者挨拶として全国パック連の平井代表より、「牛乳パックの再利用を考える全国大会」から「環の縁結びフォーラム」への変遷、全国パック連の活動、福祉事業所と紙パックリサイクルの関わりについての紹介や事業所間の交流を図るなど、今回のフォーラムの開催趣旨について説明がありました。また、来賓挨拶として容環協・中村会長より、容環協の行動計画である「プラン2015」について、その目的と今後も紙パックの回収率を上げるため活動することなどの説明がありました。

基調講演では、「大阪授産事業振興センターの取組・活動について」として、久澤運営委員長より大阪授産事業振興センターの活動内容、各地での福祉事業所による行事・バザー、販売活動について紹介がありました。

問題提起としては「紙パックリサイクル手すき製品づくりによる福祉作業所ネットワーク」について、紙好き交流センター麦の会・奥上代表より「麦の会」のコンセプト—①紙ごみの減量、②森林資源の保護、③福祉作業所の支援、④紙すき教室(環境教育)について説明があり、ネットワークの大切さや紙パック古紙の入手が難しくなってきたこと、福祉作業所で製作した紙パックリサイクル製品の販路拡大などの課題への解決協力が呼び掛けられました。

事例報告では、①「牛乳パックの回収活動について」NPO法人みんなの労働文化センター、②「コーヒーチェーンの紙パック回収事業について」社会福祉法人和光会 笠松あじや園、③「再生手すき紙等の自主製品づくりと地域との関わり」社会福祉法人いこま会 かざぐるま、④「シルバーとの連携による牛乳パックの紙漉き活動」広陵町エコセンターの4テーマの発表があり、紙パックの回収や紙パック古紙を原料とした紙すき製品など、地域の関わりとも関連した取組が紹介されました。

その後、意見交換や各作業所製品の紹介があり、普段なかなか聞くことのできない福祉事業所の取組や課題など、充実した内容のフォーラムとなりました。続く懇親会では、福祉事業所や企業など出席者の間で情報交換などが熱心に行われ、盛況のうちに散会となりました。



主催者挨拶:全国パック連 平井代表



基調講演:大阪府社会福祉協議会
大阪授産事業振興センター 久澤運営委員長



紙パックリサイクル促進地域会議



各地域での情報交換を通じて、
リサイクルの促進を図る
地域会議を開催。

「紙パックリサイクル促進地域会議」は、地域ごとの現状と課題を把握することで、紙パックリサイクルの拡大を図ることを目的としています。2014年度は千葉・神奈川の2地域で開催しました。

会議には、国、自治体、市民団体や関係事業者など多彩なメンバーが参加し、それぞれの活動報告や問題提起があり、参加者が相互に理解を深め、情報交換をすることで、紙パックのリサイクルをよりいっそう推進していくことを確認しました。

紙パックリサイクル促進地域会議
in 千葉東葛／松戸市

◆開催日 2014年8月29日
◆参加者 経済産業省、農林水産省、自治体、市民団体、乳業メーカー、容器メーカー、回収事業者など計39名

【主な報告や問題提起】

- ご来賓挨拶として経済産業省の方から、古紙の回収率・利用率の目標等の説明や、トイレトペーパーの備蓄を勧めるなどの工夫でリサイクルの発展に貢献してほしい、とのお話をいただき、続いて農林水産省の方からは、紙パックは容リ法では再商品化義務の対象外だが回収リサイクルの取組は重要であるため推進をお願いしたい、とのお話をいただきました。
- 容環協からは、事業内容と4つの委員会の活動内容について報告、および2015年の回収率目標を達成するためのロードマップの5項目—①地域の回収力を高める場づくり、②家庭の紙パック回収促進、③屋外・店舗で飲まれる紙パックの回収促進、④教育・学習の場における活動促進、⑤リサイクルに向けたコミュニケーションの充実—についての課題と具体的な活動を報告しました。

- 自治体への聞き取り調査報告では、増加傾向がある単身世帯や高齢世帯の分別排出・回収が課題であること、自治体が回収団体へ用具を提供したり業者をあっせんしている事例、ステーション回収の実態や集団資源回収の事例、店頭回収の取組や啓発活動等が報告され、質疑応答がありました。
- 全国パック連からは、自治体との紙パックリサイクルの現状認識の共有が重要であること、全国20事例集の新たな取材先である大崎の高層マンション等の先進的事例の紹介があり、事例集が各主体間の関係づくりに寄与していることの紹介がありました。
- 自治体からは、「減量協力店」での資源の回収制度をリサイクル本に掲載し、市民に周知している事例の紹介がありました。
- 古紙回収業者、古紙問屋からは、採算性や競合他社との繋がり的重要性、数量が少ない紙パックでも資源として重要であることなどをお話いただきました。
- 回収量の把握および回収方法の課題、単独回収の重要性、学校給食用の紙パックの回収等について、出席者から課題提起、活発な意見交換が行われました。



地域会議 in 千葉東葛の様子

紙パックリサイクル促進地域会議
in 神奈川／横浜市

◆開催日 2014年11月11日
◆参加者 経済産業省、農林水産省、自治体、市民団体、乳業メーカー、容器メーカー、回収事業者など計43名

【主な報告や問題提起】

- ご来賓の経済産業省の方より、容器包装リサイクルは自治体・市民・事業者等の協力のもとに成り立っている。使用済紙パックは上質な製紙原料だが、上質な古紙が最近なかなか集まらないという話もあり、回収率向上に対する期待がかなり高まっているとのお話をいただきました。同じくご来賓の農林水産省の方からは、リサイクルは地域・企業が積極的に活動しないと進まないため、これからも積極的な取組に期待しているとお話がありました。
- 容環協からは、飲料用紙容器のリサイクル促進の啓発、環境に関わる知識の普及と調査研究を目的に4つの委員会の活動内容を報告。2012年度の回収率が、目標の50%に対して44.2%であることの説明がありました。
- 9市と資源回収1団体から、紙パックの回収方法、回収量、リサイクルの取組や課題などをお話いただき、参加できなかった市については専門委員からヒアリングした調査報告がありました。
- 全国パック連からは、神奈川で自治体の集団回収量が多いのは市民団体の草の根活動が基盤になっていることが窺える。一方、量販店の店頭回収に関して、量販店は市民が資源を出しやすいが、資源回収についてさまざまな問題を抱えているため、行政との連携が

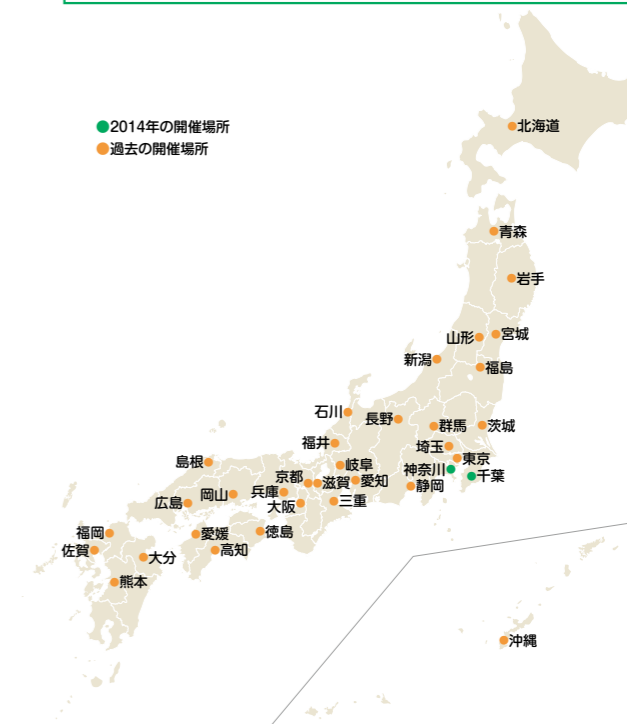


地域会議 in 神奈川の様子

必要とのご意見をいただきました。

- 藤沢市からは、レジ袋の削減協議会に参加し、市内の大手量販店など共同して店頭回収等の取組を行っていること、市内136店舗全てにごみ減量推進店登録制度に加入していただき、紙パックの店頭回収についてのHPを紹介しているとの報告がありました。
- 元気ネットからは、市民、特に高齢者の意識の啓発や受け皿について、ネットワークを構築して取組む必要があるとのご意見がありました。
- 製紙会社からは、回収量の減少傾向や牛乳の売上減少の影響などの問題、また輸出される雑がみへ混入するなどの課題についてお話がありました。
- 紙パック回収資源化の問題点として、使用後の処理の手間、回収場所の利便性、排出時の雑がみ等の混入、古紙輸出の現状把握などについて意見が交わされました。
- 量販店を重視した店頭回収促進の働きかけ、紙パック古紙輸出量の把握、地域に根ざした回収拠点の創出(大型マンションや住宅団地などにおける身近な回収場所の設置)などについて、課題提起や意見交換が活発に行われました。

地域会議の開催場所



リサイクル促進意見交換会

牛乳パックリサイクル講習会



関係団体が多数集い、
リサイクルの現状と課題を
話し合う貴重な場に。

【第26回飲料用紙パックのリサイクル促進意見交換会】

今回で26回目となったリサイクル促進意見交換会が2月6日、環境省リサイクル推進室、農林水産省環境対策室、経済産業省紙業服飾品課、経済産業省リサイクル推進課、自治体関係者、市民団体、NPO団体、再生紙会社、古紙回収事業者、原紙会社等、計65名の方が出席のもと、乳業会館会議室にて開催されました。

最初に容環協・山登会長(当時)が挨拶として、参加いただいた行政、関係各団体・企業への謝辞とともに、紙パックリサイクル活動の目的や経緯、目標などについて述べました。環境省の方からは、この意見交換会が今回で26回目を迎えることから、連携・協働による容器包装リサイクル促進は紙パックリサイクルから始まったよさだという感想をいただきました。また農水省の方からは、容環協のリサイクルへの取組について、今後の施策の先進事例になるとお話しいただきました。

その後、容環協事務局からの報告として①自主行動計画「プラン2015」、②飲料用紙パックリサイクルの現状と動向、③関東・関西Web調査、④容環協の組織運営と取組について述べ、容環協の4専門委員会からもそれぞれの活動報告を行いました。

各団体・企業からの報告では、全国パック連・平井代表からの「牛乳パックリサイクルにおける福祉作業所の実態調査集計報告」のほか、ユニーグループ・ホールディングス株式会社、株式会社日誠産業、日本テトラパック株式会社の活動報告がありました。

後半の紙パックリサイクル促進に向けた意見交換では、参加した各自治体から、容環協の資料を利用してリサイクルの普及・啓発活動を行っていることや、紙パック回収・リサイクルの現状と課題が述べられ、製紙会社からは、工場見学者受け入れなどによるリサイクル促進への取組や、今年度は天候の影響などから牛乳の消費量が減少し、例年よりリサイクル紙パックの入荷量が少なくなっていることについて意見が交わされました。

リサイクル関係団体からは、紙のリサイクルマークの種類が多く分別がわかりにくい、容器包装リサイクル法を見直すなかで判別しやすい表示にすることも考えてほしい、また4大禁忌品を混入しないよう、一般の方がわかるように普及・啓発を行ってほしいとの意見がありました。全国パック連・平井代表からは、他の都市が集団回収に移行していく中で、大阪市は行政回収に変えているので、今後も注視していく必要があるとお話がありました。

現状を知っていただき、
実際にリサイクルを体験する
楽しい講習会です。

紙パックリサイクルの現状や、紙の原料となる森林の管理状況を説明するとともに、回収ルールの体験を通して牛乳パックの回収に関心を持っていただくため、「牛乳パックリサイクル講習会」を毎年開催しています。

【相模原市】7月31日

昨年度に引き続き、相模原市環境課のご協力のもと、小学生を中心に21組55名が参加し、橋本台リサイクルスクエアで開催された講習会。世界で一つの手すきはがきづくりの後は、牛乳パックリサイクルの解説パネルや再生紙製品などを展示し、保護者の方を交えた活発な質疑応答も行われ、親子で楽しく学びました。

【西東京市】8月5日

エコプラザ西東京のイベント「夏休み自由研究2014」の一環で、西東京市では今回で6回目となる牛乳パックリサイクル講習会を開催しました。「世界で1枚の手すきはがきを作ろう!」が小学3~6年生を対象に行われ、児童48名と保護者20名が参加し、全員が「マイハガキ」を完成させました。

【富士見市】8月21日

市の教育委員会が事務局の学習プログラム「こども大学ふじみ」の一環として開催された講習会に、小学生60名とボランティアの大学生8名が参加。全員が紙パックを6枚以上持ってくるなど環境に関心が高く、全国パック連・平井代表の講義、手すきはがきづくりや牛乳パック手開きなどを通して、牛乳パックリサイクルについての理解を深めました。



主催者挨拶:容環協 山登会長(当時)



ステークホルダーの方々



飲み終わった牛乳パックを実際に手開き(相模原市)



手すきはがき、うまくできたかな?(富士見市)

牛乳パックリサイクル出前授業



子どもたちの学びの場に。
毎年好評の「出前授業」を
全国の小学校で開催。

2014年も全国の小学校で、全国パック連と連携して「牛乳パックリサイクル出前授業」を開催しました。

【千葉県 市原市立ちはら台桜小学校】1月29日

開校してまだ3年のちはら台桜小学校。出前授業は4年生4クラス134名を対象に体育館で行われました。手すきはがきづくりでは1クラス8班に分かれ、クラスごとに順番で体験。アイロン8台という大規模な授業でしたが、「インフルエンザでお休みの友達の分も作らせてください」と子どもたちから心優しい申し出があり、無事、皆のハガキが出来上がりました。

【東京都 江戸川区立篠崎第二小学校】2月14日

2014年から総合授業をきっかけに紙パックリサイクルを始めたという篠崎第二小学校。出前授業は4年生2クラス74名を対象に、あいにくの大雪の中、多数の保護者の方と江戸川区環境部清掃課ごみ減量係の担当者も見学のもと行われました。手すきはがきづくりでは手がかじかむほどの水の冷たさでしたが、子どもたちは丁寧にオリジナルハガキを完成させました。



手すきも上手にできます！（市原市立ちはら台桜小学校）

【千葉県 野田市立二川小学校】9月18日

利根川と江戸川に挟まれ、黄金色の田んぼが広がる豊かな土地にある野田市立二川小学校の出前授業は、4年生2クラス75名が参加しました。手すきはがきづくりとともに行った紙パックリサイクルのパネル授業では、容環協の自称「おっちゃん」たちがユーモアを交えて説明。リサイクルの大切さ、再生紙の製造方法など、子どもたちの理解も深まったようでした。

【静岡県 静岡市立東源台小学校】9月25日

朝からの台風16号による雨も開始時間にはすっかり晴れ、5年生4クラスの108名を対象に行った出前授業。手すきはがきづくりの紙すきを待つ間に「何故わざわざ東京から出前授業に来たのですか？」との鋭い質問があり、「使用済紙パックの回収率がまだまだ低いので、こうして啓発活動に力を入れています」と説明しました。



「おっちゃん」の紙パックリサイクル講義（野田市立二川小学校）

【茨城県 筑西市立上野小学校】10月2日

茨城県西部に位置する筑西市の上野小学校では、3年生と4年生、計40名を対象に出前授業を実施しました。廊下には新しい紙パック回収ボックスが置かれ、投入口が広く入れやすくなった、たまった紙パックが取り出しやすくなったなどと、好評でした。手すきはがきづくりでは、ハロウィンにちなんだ絵柄のハガキを完成させ、子どもたちはとても満足そうでした。

【栃木県 野木町立友沼小学校】10月17日

明治5年創立、141年の歴史を誇る友沼小学校では、5年生26名を対象に出前授業を開催しました。全国パック連の平井代表の講義では、「1リットルの牛乳パック何枚でトイレットペーパー1ロールができるか？」というクイズの答えが「6枚」だということに、皆、驚いた様子。オリジナルの手すきはがきづくりでは、出来ばえに満足な様子でした。



紙パックのリサイクルに興味津々！（野木町立友沼小学校）

【奈良県 王寺町立王寺北小学校】11月26日

奈良県の北西部、大阪市のベッドタウンとして栄えている王寺町。聖徳太子と縁の深い町とも言われています。出前授業は、住宅街に位置する王寺北小学校で行いました。4年生57名と先生3名が参加し、「おはようございます」の元気な挨拶で授業を開始。紙すき体験では冬の冷たい水にもかかわらず、興味津々の様子できれいに手すきはがきを完成させました。

【茨城県 水戸市立赤塚小学校】12月5日

この冬初めて日本列島を寒波が襲った日、赤塚小学校での出前授業には4年生2クラス51名と先生2名が参加しました。講義で出題されたリサイクルのクイズにほとんどの子が正解するなど理解が深く、紙すき体験ではクリスマスにあわせたトナカイなどの絵柄のカードを楽しく作りました。最後の挨拶では、「今後もリサイクルを続けていきます」と力強いお礼の言葉がありました。



手すきはがき、できました！（水戸市立赤塚小学校）

エコライフ・フェア／エコプロダクツ2014

牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール



リサイクルの大切さを啓発。
紙パックの手開きや紙すきを
体験しました。

【エコライフ・フェア2014】6月7日、8日

1990年以来、環境省が中心となり、東京・渋谷の代々木公園を会場に、環境の日(6月5日)前後に開催されているエコライフ・フェア。全国パック連と協働で8回目の出展を行い、延べ370名のお客様をお迎えしました。

イベント広場のテントでは、市民団体“たんぼぼ”の協力のもと、手すきはがきづくりや紙パックを使った小物づくりを実演し、パネルによる紙パックリサイクル啓発とクイズを実施。ワークショップでは、紙パックの手開き体験などのイベントを行いました。初日は朝から強い雨が降るあいにくの天気でしたが、テントへの来場者が途切れることなく、2日間のイベントを通じて多くの方にリサイクルを実感していただきました。



テントでリサイクルクイズ



小物づくり

連日盛況の容環協ブース。
国内最大級の環境展に
出展しました。

【エコプロダクツ2014】12月11日～13日

1999年から開催されている日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ展」は、2014年で16回目の開催となり、容環協は牛乳パック再利用マーク促進協議会と共同で出展しました。

展示会全体の来場者数は161,647名、そのうち1,607名が容環協ブースに足を運び、実際にイベントに参加していただきました。ブースでは紙パックのリサイクルのルールや仕組みを学ぶ「環境パネルラリー」や「もったいないものがたり」などの各種資料の配布に加え、「牛乳パック手開き体験」のワークショップ、また恒例となった全国パック連の協力による「手すきはがきづくり体験」を行い、さまざまな展示や活動を通じて、紙パックのリサイクルへの理解と協力を広く訴える機会となりました。



環境パネルラリーでの説明



ワークショップ風景

久保谷 尊さんの作品
「これがぼくの栗原小学校」が
みごと最優秀賞に。

14回目を迎えた「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール2014」には全国の小学校より2,720作品の応募がありました。いずれも秀作ぞろいの中、厳正な審査の結果、受賞作品7点が選ばれました。おめでとうございます。



最優秀賞作品「これがぼくの栗原小学校」
久保谷 尊さん

最優秀賞は茨城県の小学校6年久保谷尊さんの作品「これがぼくの栗原小学校」でした。この作品は小学校最後の夏休みを利用して、1年生から通い続けた思い出の学校を形に残したいとの強い思いから制作されたものです。実物の質感と牛乳パックの素材の組み合わせを工夫した完成度は、力作ぞろいの応募作品の中でも際立って精緻な作品として評価されました。

受賞作の表彰式は「エコプロダクツ2014」の容環協ブースにて12月13日に行われ、審査委員長の東京国立博物館・銭谷館長、実行委員長の容環協・中村会長はじめ審査委員の方々から、受賞者にそれぞれ賞状・楯・副賞が贈られました。

受賞作品は容環協の小学校向けホームページ「牛乳パックン探検隊」で紹介されています。



最優秀賞受賞の久保谷 尊さん



「エコプロダクツ2014」容環協ブースで行われた表彰式

《受賞作品》

- ◆最優秀賞 「これがぼくの栗原小学校」
久保谷 尊さん(つくば市立栗原小学校6年)
- ◆優秀賞 「深海のそうじ屋ダイオウグソクムシ」
神谷 泰良さん(岐阜市立長良東小学校3年)
- ◆優秀賞 「町びかトング」
坂本 花南雨さん(川崎市立向小学校2年)
- ◆全国小中学校環境教育研究会賞
「へんしんバッグ」
久保田 芽月さん(熊谷市立桜木小学校1年)
- ◆全国牛乳パックの再利用を考える連絡会賞
「もりだこ」
寺坂 太智さん(京都女子大学附属小学校1年)
- ◆全国牛乳容器環境協議会賞
「妹のオーダー・チェア」
南部 篤司さん(涌谷町立涌谷第一小学校4年)
- ◆日本乳業協会賞 「牛乳パックのよらい」
秦 幸生さん(和歌山市立三田小学校4年)

紙パック組成分析調査／その他の活動



分別排出の現状を知るため、
資源の組成調査を
実施しました。

【松戸市での紙パック組成分析調査】

紙パック分別排出のルールについては、多くの市町村で市民向けのパンフレットやホームページ上で公開されています。容環協では今回、その実態の一部を把握するため、松戸市の古紙回収業者にご協力いただき、またこうした調査をこの数年単独では実施していなかったことから、紙製容器包装リサイクル推進協議会ほかのご指導を仰ぎながら、7月8日に組成調査を実施しました。

分別排出のルールでは、「紙類」はダンボール、新聞・チラシ、雑誌・本、紙箱(菓子箱など)、牛乳パックなどを種類ごとにひもで縛ることになっています。しかし、各ステーションから集められた資源を実際に調査してみると、そのほとんどは市の規則に基づき束ねられていたが、一部そうっていないものもありました。そうした分別の実態を一人ひとりが肌で感じながら、丁寧に紙パックの仕分けを行いました。

今回の組成調査の結果については、「紙パックリサイクル促進地域会議in千葉東葛」で報告しました。



組成調査の様子

全国パック連と協働で
商業施設との連携にも
取り組みました。

【伊勢丹松戸店との連携】

桜が満開となった3月29・30日、伊勢丹松戸店新館内アートスポットまつで開催された「春休み親子で楽しむ環境イベント」に、全国パック連・容環協が協働してエコ・ワークショップを出展しました。2日間で手すきはがきづくりに約170名、パネルクイズに約130名の方々に参加いただきました。



パネルクイズにチャレンジ!

【商業施設「ララガーデン長町」との連携】

7月26・27日の両日、仙台市の地域密着型商業施設「ララガーデン長町」で、エコ・リサイクルのイベントを開催しました。今回で2回目の開催となった本イベントでは、クイズや紙すき体験のほかに、今回初めて牛乳パック手開きを行い、多くの方が参加されました。家でも紙すきをやりたいという方には手すきはがきづくりの冊子をお配りしました。



「手すきはがきづくり」コーナー

容環協のホームページを
リニューアルしました。

【紙パックリサイクルの更なる情報発信を目指して】

今まで皆さんに親しまれていた、黄色をベースにした容環協のホームページをリニューアルしました。

リニューアルにあたっては、解析ツールを利用し、ページ別訪問数、平均ページ滞在時間、参照元などを把握し、コンテンツの階層やグループなどを整理しました。コンテンツは、大きく分けて「主な活動」「リサイクルのしくみ」「紙パックについて」「申し込み案内」、その他に「おしらせ」「容環協の概要」「リンク集」を用意し、紙パック回収のためのメッセージも掲載しています。

また、新しいデザインでは白色を基調とし、バックが配置されるなど、より見やすいページになりました。

新しくなったホームページに是非遊びに来てください。

容環協HP <http://www.yokankyo.jp>



リニューアルした容環協のホームページ

1/2サイズの回収ボックスと、
新しいうちわを作りました。

【1/2サイズ「紙パック回収ボックス」による活動推進】

2013年に作成した新回収ボックスに加え、新たに幅が1/2サイズの回収ボックスを製作しました。本体と上部蓋の2パース構造で取り出しやすい基本構造はそのままに、オフィスなどでキャビネットや机の横などスペースのないところに置けるようにしたものです。

お申し込みは、回収ボックスとは別になりますが、容環協・事務局までお願いします。



1/2サイズ「紙パック回収ボックス」

【啓発ツール「うちわ」のリニューアル】

啓発ツールの「うちわ」を新しく作成しました。前のものから一回り大きなサイズとなっているほか、表面をぬり絵タイプのイラストにして、絵柄も「海」「山」「丘」の三種類を用意。裏面には牛乳パック回収ルール、リサイクルの流れの説明を入れています。リサイクル講習会やエコライフフェアなどのイベントで使用します。



新しく作成した「うちわ」